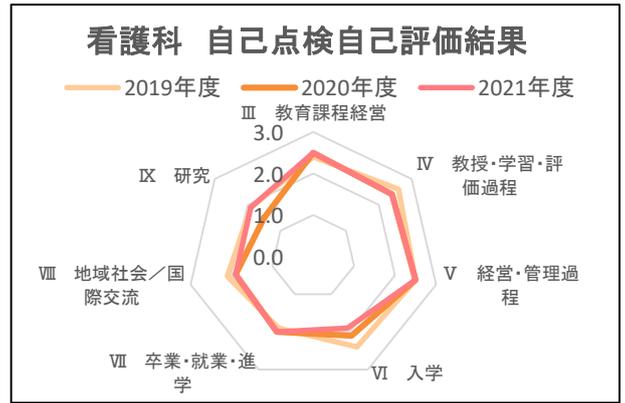
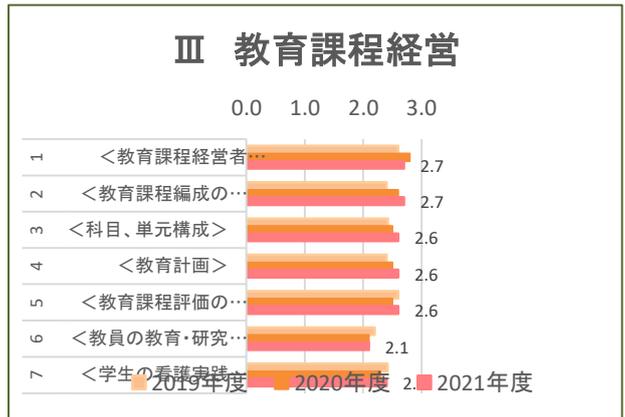


2019・2020・2021年度 自己点検自己評価結果 看護科
 <評価基準> 3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

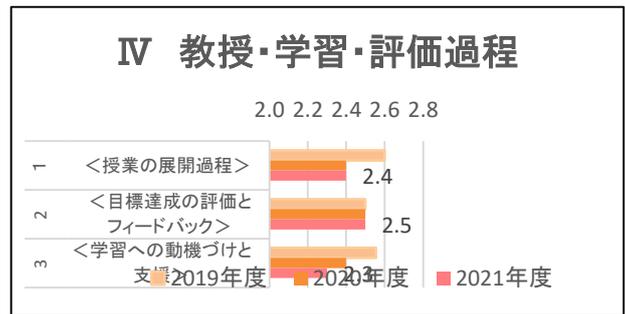
	2019年度	2020年度	2021年度
III 教育課程経営	2.4	2.5	2.5
IV 教授・学習・評価過程	2.6	2.4	2.4
V 経営・管理過程	2.5	2.5	2.5
VI 入学	2.4	2.1	1.9
VII 卒業・就業・進学	1.9	2.0	2.0
VIII 地域社会／国際交流	2.1	1.9	1.9
IX 研究	1.9	1.5	1.9



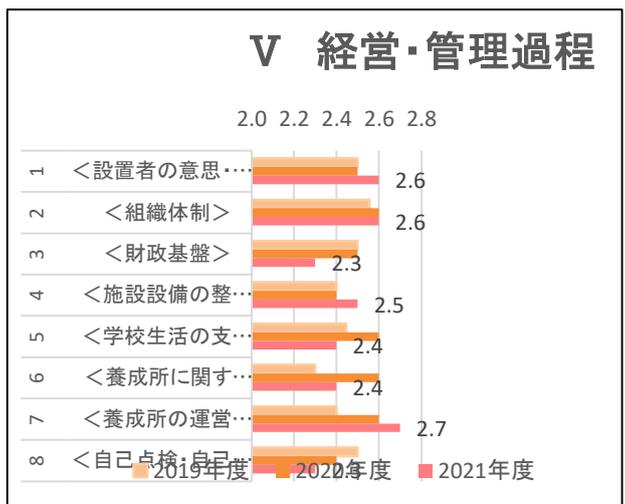
III 教育課程経営		2019年度	2020年度	2021年度
1	<教育課程経営者の活動>	2.6	2.8	2.7
2	<教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.4	2.6	2.7
3	<科目、単元構成>	2.4	2.5	2.6
4	<教育計画>	2.4	2.5	2.6
5	<教育課程評価の体系>	2.6	2.5	2.6
6	<教員の教育・研究活動の充実>	2.2	2.1	2.1
7	<学生の看護実践体験の保障>	2.4	2.3	2.4
平均		2.4	2.5	2.5



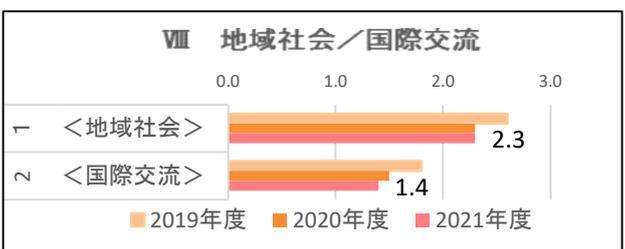
IV 教授・学習・評価過程		2019年度	2020年度	2021年度
1	<授業の展開過程>	2.6	2.4	2.4
2	<目標達成の評価とフィードバック>	2.5	2.5	2.5
3	<学習への動機づけと支援>	2.6	2.4	2.3
平均		2.6	2.4	2.4



V 経営・管理過程		2019年度	2020年度	2021年度
1	<設置者の意思・指針>	2.5	2.5	2.6
2	<組織体制>	2.6	2.6	2.6
3	<財政基盤>	2.5	2.5	2.3
4	<施設設備の整備>	2.4	2.4	2.5
5	<学校生活の支援>	2.4	2.6	2.4
6	<養成所に関する情報提供>	2.3	2.6	2.4
7	<養成所の運営計画と将来構想>	2.4	2.6	2.7
8	<自己点検・自己評価体制>	2.5	2.4	2.3
平均		2.5	2.5	2.5



VIII 地域社会／国際交流		2019年度	2020年度	2021年度
1	<地域社会>	2.6	2.3	2.3
2	<国際交流>	1.8	1.5	1.4
平均		2.2	1.9	1.9



2021年度 重点課題に対する評価 看護科

1. カリキュラム改正に向けた取り組みを行う。

① 改正カリキュラムの意図を組み入れた教育課程の構築に向けて月2回の検討会を行う。

10年振りのカリキュラム改正の意図は、地域包括ケアシステムの推進において、地域で生活するあらゆる人々に焦点を当てたことと、臨床判断能力の強化である。そこで、講義・実習・会議等で時間の捻出が難しい中でも、月2回の検討会を実施したが、遅々として進まない状況であった。教員の4段階評価では3.0で、日々の教育活動をしながらの検討会であり、次年度に資料提出ということもあり「まあまあできた」という意見であった。今回のカリキュラム改正では、自由裁量が増えて柔軟なカリキュラム運営が可能になった反面、学校の独自性が問われてくるため、八女筑後地域の特殊性を踏まえてカリキュラムを考えていく必要がある。現在、2023年度始動に向けて今年は申請書の提出の年度であり、今後もディプロマポリシーを目指した魅力ある学校づくりを行うための回数を増やして計画的に実施していく必要がある。

② 多職種連携教育・ICT教育の準備・導入に向けた実施方法の検討

地域包括ケアシステムにおける看護師の役割はますます高まるため、多職種との連携・協働がとても重要になる。そこで新カリキュラムでの多職種連携教育導入を円滑に進めていくため、既存の科目に近郊の専門学校の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による講義を導入した。また、ICT教育に向けた準備については、近郊の工業大学との包括的連携協力に関する協定を結び、従来のパソコンの講義だけでなくAI・ICTに関する教育を目指して動いている段階である。また、次年度からの電子書籍導入に向けて、勉強会を行い、日頃から活用できるようにした。これらのことより、取り組みだしてはいるが、具体的な内容や方法の検討までは進んでいないため、教員の4段階評価は2.8であった。更に、多職種連携教育を発展させるため、他校の学生との共同学習の導入に向けた具体的な方法の検討を行っていく必要がある。

2. 看護職としての自立・自律を目指した教育を行う。

① 専門職としての自覚をもたせる関わりを行う。

学生への支援体制として、クラス担当制と、個々に応じた支援として、チューター制を導入している。実習支援としては、教員の他、非常勤の実習指導教員も関わっての指導を行った。教員の評価は2.8であった。その理由として、「1年生への関わりが十分ではなかった」や「専門職として自覚させる具体的な関わりが不明」との意見があった。1年生の基礎的な教育が2年生の実習や国家試験に繋がるため、今後も1年生に向けた指導を強化していく必要がある。

卒業時のカリキュラムに対する評価では「専門的な知識が身についたか」の問いに対しては96%、「専門的な技術が身についたか」の問いに対しては92%が肯定的に答えていることや、コロナ禍においてもできる限り臨地実習ができるように調整したことで、ほぼ実習に行くことができた。学生は「実習の教育内容に満足か」の問いに対しては、88%が肯定的に答えていることから、臨床で働く上で自信に繋がったのではないかと考える。

② 学生の個々に応じた個別指導や進路指導など学生をサポートする。

教員の評価は2.7であったが、学生の評価は「個別指導、進路指導など学生をサポートする体制が整っているか」の問いに対しては、肯定的意見が昨年と比べて34%増加し、84%となった。また、「全体的に本校で学んだことに満足か」の問いに対しては、肯定的意見が92%であった。就職支援について、昨年は肯定的意見が45%であったが、今年は72%に上昇した。その要因として、チューターの教員が学生の相談に応じたり、履歴書の書き方や面接の受け方などを意識して指導した結果、上昇したのではないかと考える。今後も学生が何を求めているのかを把握し支援をしていく必要がある。

3. 感染症対策をとりながら教育の質を担保する。

①教職員・学生の感染対策の徹底を行い、教育の継続を図る。

②感染状況に応じた教育方法の選択と工夫を行い、教育を充実させる。

新型コロナの世界的流行を受け、国内でも緊急事態宣言や蔓延防止等の措置がとられる中、新型コロナ感染症のワクチン接種をいち早く医師会に働きかけ、医師会の協力のもと2回のワクチン接種を学内で実施し、接種率を高めた。地域や家庭内において新型コロナウイルスの感染が拡大し、教職員・学生共に感染する可能性が大であったが、学内での密を避けるために、教室や講堂を使用する、アルコールやアクリル板の設置などの対策を強化したことで、クラスターを起こすことなく教育の継続ができた。また、感染対策を行いながら、できる限り対面授業ができる環境を整え、感染者が出た場合は、速やかに濃厚接触者を特定し、ZOOMによる対応を行い、できるだけ学生が学べる環境を整え教育の質を担保した。教員評価は3.0であり、学生の「新型コロナ感染症対策として、学校の対応に満足か」の問いに対しては、肯定的意見が88%であった。今後も引き続き、感染症対策を行いながら、よりよい教育を継続できるようにしていく。

4. 看護師国家試験受験の全員合格を目指す。

全員合格に導くための対策として、業者模試を9回、業者による特別講義を4月と7月に実施し、学生の国家試験への取り組みを支援した。また、対策強化ゼミを全員に臨ませた。更に成績低迷者を対象とした学外講師と学内教員による補習講義を1月に58時間行った。コロナ感染症の罹患で受験不可とならないように注意喚起を行い、濃厚接触者に関してはオンラインで実施した結果、全員が受験できV5を達成できた。以上のことから教員の4段階評価は3.8であり、学生の卒業時カリキュラムに対する評価の「国家試験対策（模擬試験・特別講義・補習講義）に満足しているか」の問いに対しては、肯定的な意見が前年度より24%上昇し88%であった。今後も引き続き国家試験対策を工夫し、V6を目指す。

2022年度 重点課題 看護科

1. カリキュラム改正に向けた取り組みを行う。
 - ①改正カリキュラムの意図を組み入れた、教育課程の構築に向けて、月4回以上の検討会を行う。
 - ②ディプロマポリシーを目指した魅力あるカリキュラムを作成し、資料を期限内に提出できる。

2. 専門的な知識・技術を向上させ、社会が求めている人材教育（社会人基礎力の育成）に努める。
 - ①学生の学習意欲と技術の向上ができるように、学生個々に応じたサポートをする。
 - ②専門職として主体的に学ぶ姿勢、自ら考える力を持つことができる関わりを行う。

3. 本校で学んだことに誇りを持たせ、満足できるような教育を行うことで、学生確保に努める。
 - ①看護師国家試験の全員合格を目指す。（V6を目指す）
 - ②達成感が持てるような関り（できているところに目を向け、誉める、気づかせる）をすることで、満足感を高める。